

福井県食見海岸でのルリガイの大量漂着

高山壽彦*¹

Toshihiko TAKAYAMA*¹. 2021. Mass stranding of violet sea-snail *Janthina globosa* Swainson on Shikimi Beach in Fukui Prefecture. *Ciconia* (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 24:43-44.

福井県三方上中郡若狭町の食見海岸で、2020年9月21日早朝に、ルリガイ (*Janthina globosa* Swainson, 1822/アサガオガイ科) の大量漂着を確認、一部を採集した。採集した標本には変異 (写真1, 2) が見られたが、ハブタエルリガイ (*Janthina pallida* Thompson, 1840) とは判断できなかった。

採集地は、福井県海浜自然センターの南西側の砂浜 (北緯 35° 33' 43.9" / 東経 135° 50' 14.2") であり、ルリガイ以外にも大量の漂着物が見られた。(写真3参照)



写真1. ルリガイ (大型)
 螺塔: 高い個体, 低い個体
 殻軸: 湾曲あり, 湾曲なし
 色調: 大きな違いなし
 殻の薄さ: 大きな違いなし



写真2. ルリガイ (中型)
 螺塔: 大きな違いなし (やや高い)
 殻軸: 大きな違いなし (湾曲なし)
 色調: やや白い個体, 瑠璃色の個体
 殻の薄さ: 大きな違いなし



写真3. ルリガイの漂着状況 (白矢印)

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) 〒424-0038 静岡県静岡市清水区西久保 304-1-304

¹ NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク

多くの巻貝の成体が底生生活を送る中、ルリガイを含むアサガオガイ科の巻貝は、足裏から粘液泡を分泌し、“筏”をつくることで、それにぶら下がり、生涯を通し、外洋・暖流域で浮游生活を行う。浮游しながら、カツオノエボシ<*Physalia physalis* (Linnaeus, 1758)/刺胞動物門ヒドロ虫綱管クラゲ目>や、ギンカクラゲ<*Porpita porpita* (Linnaeus, 1758)/刺胞動物門ヒドロ虫綱花クラゲ目>を捕食する。

今回、ルリガイとともに、彼らの“筏”（写真4）の漂着や、大量のギンカクラゲ（写真5）の漂着も確認された。

今回の漂着では、全てのルリガイの採集は不可能であったが、140 個余の個体を採集した。

採集したルリガイは、松本（2001）にならい、殻高・殻径を測定した。（表1参照）

今回の採集では、10mm に満たない個体から、40mm 前後の個体まで確認され、15.0mm～19.9mm の個体が最多（約50%）であった。

なお、松本（2001）のように、2001 年の大量漂着も今回と同様に9 月下旬であることから、食見海岸では、この時季、浮游生活を行っている動物群の漂着しやすい気象条件となる可能性も考えられる。

引用文献

奥谷喬司（編著）. 2017. 日本近海産貝類図鑑 第二版. 東海大学出版会, 東京.

波部忠重・小菅貞男. 1967. 標準原色図鑑全集 3 貝. 保育社, 大阪.

松本一夫. 2001. 三方町食見海岸に打ち上げられたルリガイ. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 9:43-44.

キーワード：ルリガイ、ギンカクラゲ、食見海岸

表1. 採集したルリガイの殻高・殻径

計測値 (mm)	個体数	
	殻高	殻径
5.0～9.9	10	8
10.0～14.9	27	24
15.0～19.9	32	38
20.0～24.9	21	18
25.0～29.9	29	31
30.0～34.9	16	19
35.0～39.9	9	6
計	144	144



写真4. ルリガイとその筏, 及びギンカクラゲ



写真5. ギンカクラゲの大量漂着